



「金融」は道具、人間の発達を促すことが教育の目的

おお やぶ ち ほ 大藪千穂先生

東海国立大学機構 機構長補佐
東海国立大学機構 岐阜大学
副学長・教育学部教授

〈プロフィール〉

日本消費者教育学会会長、生活経済学会会長。大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程単位取得修了。博士(学術)。専門は金融経済教育、家計分析、ライフスタイル論。著書に『新版 はじめての金融リテラシー』『生活経済学』など



生活経済学会の会長を務めるなど、日本の金融経済教育研究の第一人者として知られる大藪千穂先生。大学での授業や、自らの研究で得た経験を基に、新しい金融経済教育のあり方、狙いを語っていただきました。授業に臨むうえでの具体的なヒントも満載です。

「3つのF」で大学生に金融経済教育

「金融経済教育に限らず、教育に大切なのは『3つのF』です。新鮮 (Freshness) な情報を、楽しく (Fun) 伝えること。そして最後には自由 (Freedom) であることです」と大藪先生は話します。

「こうしないといけない」ではなく、自分で選択肢を見つけ、選択できるようになることを目指しているそうです。

大藪先生は金融経済教育を「消費者教育」「経済教育」「金融教育」、そして「投資教育」の4つに分類し、そのバランスを考えながら、入学式の歓迎セレモニーや初年次セミナー、全学共通課目の「生活の経済」などを通じて、最適な時期に必要なことを教えています。

「高校の家庭科で習ったはずですが、クーリングオフくらいしか覚えていない学生が多い。クーリングオフは通販では適用されないなど、基本的なことをしっかり教えます」。

■金融経済教育 4つの分類



出所：大藪千穂氏への取材を基に日本FP協会作成

また4～5月には「労働契約」を扱います。連休明けから多くの学生がアルバイトを始めるためです。悪質商法や闇バイトの被害に遭う例もあり、防御法や相談先を確認していきます。

授業では、自分にかかった教育費を算出し、それをアルバイト代で割り算します。「自分の教育費が何年分のアルバイト代に当たるのかを知り、学生たちは驚いています」

家計簿を3カ月間つけることも課しています。学生はその分析方法を学び、自分の生活を振り返り、レポートにまとめて提出します。

投資を取り上げるのは授業の終盤です。「投資は家計や経済の理解があって初めて行うもの。家計簿の分析の結果、1,000円や2,000円の余剰があれば、それで始めてみるとよいと話しています」

生徒のために教科間での情報共有と工夫を

金融経済教育の教員向け研修講師を務める機会も多い大藪先生は、金融リテラシーに自信の

III 契約と悪質商法

1 悪質商法ってなに？






「簡単に大金が入る」「絶対にもうかる」「資格が取れる」「オーディションに参加できる」など、世の中にはさまざまな誘いの手口で若年層をターゲットに契約を迫る商法があります。これらはほとんどが詐欺に近いもので、高額な売買契約にサインを求めものも多く、**悪質商法**と呼ばれます。一人暮らしの高齢者を狙って高額な現金を騙し取る特殊詐欺と呼ばれる悪質なものもありますが、ここでは若年層の消費者被害を考えてみましょう。

Think! あなた自身が被害に遭いそうになった経験を書いてみよう。



2 悪質商法のどこが問題なのか？

Think! 以下の悪質商法の事例をよく読んで、どこに問題があったのか考えてみよう。

- 
ワンクリック詐欺： ネット接続中にウェブサイト上で年齢認証のクリックを求められ、18歳以上をクリックすると同時に会員登録料を請求された！
- 
タレント・モデル契約： SNSで誘われオーディションに応じたところ、合格と同時に芸能スクールの入学と高額なレッスンを契約してしまった！
- 
アポイントメントセールス： SNSで知り合った異性の相手から突然のメッセージなどで呼び出され、恋愛感情を巧みに誘導されて高額な宝石類を購入してしまった！
- 
マルチ商法： 商品購入を勧められ、さらに2人を紹介すれば一人当たり〇万円もらえると、無限にもうかっていく錯覚に陥ってしまい、購入してしまった！
- 
投資セミナー商法： SNSで誘われ、投資で著名な専門家と称する講師の話を聞かされ、投資のノウハウを学ぶ高額な講座のUSBメモリなどを購入することになってしまった！

ない先生方にこう伝えます。

「最終的には先生自身が主体的に授業ができるようになることが目標です。最初は外部講師を呼んで、その授業を参考に、教材の使い方などを学び、自分のものにしていけばよいでしょう。大切なのは知識、ノウハウを教えるのではなく、生活や人生をどうしたいかを考えてもらうことです」

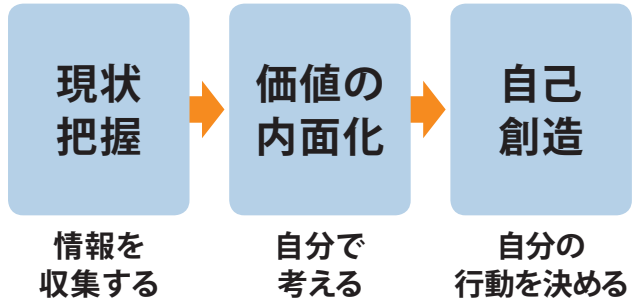
先生方をお願いしたいこととして、「ほかの教科にも関心を持って、どう連携すれば内容が充実し、相乗効果が高まるかを他の先生方と話し合うこと」と、大藪先生。

「金融経済教育は特定の教科に属しません。ただし、学ぶのは同じ生徒です。公共なら制度の面から、家庭科なら生活面から学び、複数の知識が統合されて『金融経済』への理解が深まっていく。そのための工夫が必要です」

10代で学ぶことで その後の人生の選択に好影響

「人間の発達には段階があります。まず情報

■人間発達の3段階 (イメージ図)



出所：大藪千穂氏への取材を基に日本FP協会作成

収集をすることで『現状把握』できること。次に『物価が上がっているけど賃金は？』と自分で考えることができる『価値の内面化』の段階。最後に考えた結果、自分の行動をどうするか決める『自己創造』の段階です」

この発達を促すうえで、10代のうちから学ぶのは非常に重要だと大藪先生は指摘します。

大藪先生はこれまでの様々な研究や実践の結果、「情報力が高い人が、金融に関してもいい選択をしている」という結論を見出しています。

情報力が高い人には、活用がうまい人と収集がうまい人がいます。前者は理解が早く、後者は時間はかかるが自発的な選択行動ができます。目的遂行には忍耐も必要だと理解すると、健康的で安定した生活を送る傾向も見られます。

「例えば災害時にどう行動するかを想像できる力も金融経済教育と同じです。知識をどう活かすか、今何をすべきかを自分で考えられるようになること。それが最も大切です」

大藪先生からのメッセージ

金融経済教育は「金融を教える」のではなく、金融を道具にして「人間発達を促す」教育。金融のことを教えなくてはいけないのではなく、金融を通して、人間の成長と発達を促すための授業です。自分で考えて、自分で判断できるような人間に育てることが究極の目標であり、教師の役割です。